

マイフロンティア 2011

■ 事業のねらい

学校生活等に悩みを持つ児童・生徒が、生活体験・自然体験活動、また集団での活動や仲間との交流をとおり、新たな自分に気づき、自己や周囲との関係について学び、自分を見つめ直そうとする意識の高揚を図る機会とする。



- 実施日 平成23年9月28日（水）～9月30日（金） 2泊3日
- 参加対象 小学生（高学年）～中学生と引率者 30名
- 参加実績 参加者：46名（児童・生徒32名、引率者14名）
小6＝1名、中2＝3名、中3＝28名
男子＝5名、女子＝27名
運営協力者：札幌国際大学学生11名
- 備考 活動場所：洞爺少年自然の家・キムンドの滝（壮瞥町）

1 事業実施の背景



平成21年度の調査によると、不登校児童生徒数は前年度に比べ増加し、本道における教育上の大きな課題となっている。当施設では以前から、千歳市や北広島市が実施していた適応指導教室の修学旅行や、宿泊研修に代わる行事を受け入れていた実績があり、平成20年度から、各適応指導教室と連携し主催事業として実施してきた。翌平成21年度からは、道教委パイロット事業として取り組んでおり、3年目を迎えた今年度は、4市適応指導教室情報交換会の協力を得て、石狩市、恵庭市の適応指導教室の児童・生徒が新たに参加をし、事業を開催することとなった。

この事業では、施設に駐在する道教委の社会教育主事と指定管理者の指導員が、適応指導教室の職員と参加者個々の状態を把握しながら、事業の企画の段階から関わり、自然体験活動をとおり、児童・生徒の自己開示を確立しコミュニケーション能力や課題を解決する能力を育むことをねらいとしている。

■ プログラムデザイン

1日目 9月28日（水） 出会いの日																
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22						
受付（ネイバル洞爺） 12:30～13:00			受付	開会式	コミュニケーション ショッキングゲーム	チーム クッキング （野外炊飯）		入浴	チーム ミーティング ふりかえり		就寝準備	就寝				
2日目 9月29日（木） 挑戦の日																
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
起床	洗面	朝食	ファイヤー 企画 出発準備	チームウォーキング （キムンドの滝）					入浴	夕食	準備	ファイヤー ふりかえり	就寝準備	就寝		
3日目 9月30日（金） 旅立ちの日																
6	7	8	9	10	11	12	13									
起床	洗面	朝食	部屋点検	服S L U E S	ふりかえり 自分史づくり	昼食	閉会式	解散 13:00								

■ アクティビティについて



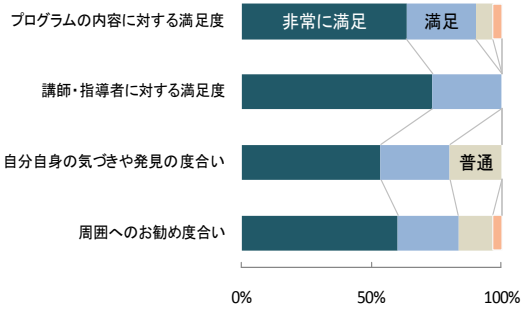
■ 意図

- 集団（チーム）での活動や仲間との交流をとおり、自己や周囲との関係を学ぶことができるよう、意図的にチームでの活動を主体としたプログラム設定とした。
- 湖畔道路を活用した、キムンドの滝を折返しとする施設往復のチームウォーキングを実施することで、仲間と歩きながら新たな自分に気付いたり自分を見つめ直そうとする意識の高揚を図った。

■ 留意事項

- 4市の適応指導教室引率者との打合せを綿密に行い、子どもたちの状況の把握に努めた。
- 大学生のボランティアスタッフを11名に増員し、また、4市の引率の指導員にサポートしてもらい、子どもたちの参加に対する不安を和らげた。

3 活動の様子



4 事業評価



5 まとめ



■ 当日の様子

1日目は、コミュニケーションゲームでチーム内での交流を深めた後、チームでの活動による野外炊飯のカレーづくりに取り組んだ。薪割りや集団で調理を体験するのは初めてだったが、カレーができあがる頃にはチームの仲間同士が打ち解ける姿が見えた。

2日目は、ネイパル洞爺からキムンドの滝を往復する10.8kmのウォーキングを実施。参加者同士がチームで互いに励まし合いながら歩いたこともあり、ウォーキングに参加をした子ども全員が完歩することができ、チームでの達成感を味わった。夕方からは、参加した子どもたちの進行でキャンプファイヤーを囲みながら、2日間のふりかえりを行った。

最終日は、自分史を作成し、1年後、5年後、10年後の未来予想を行った。また、思い出の品として「ハンカチ」染め体験を実施した。

■ 参加者の声（アンケートから）

- ウォーキングをとおして、「やればできる」ことがわかった。
- 自分にはポジティブな部分があったことと、怖がってはだめだということがわかった。
- 初めは不安だったが、みんな話し掛けてくれてとても優しさを感じた。
- 人にはいろいろな意見があることと、人と違う意見が出て当たり前だということを知った。
- 最初は全然しゃべらなかつたけど、だんだん慣れて楽しかった。

■ 参加者の変容【IKR調査結果】

本事業は、参加児童・生徒に思いやりの心や社会性、自主性などが醸成され、学校や地域における社会生活に自信を持つことを目的とし、「日常的行動」「非依存」「交友・協調」「現実肯定」「思いやり」「身体的耐性」の向上について重点を置いた。

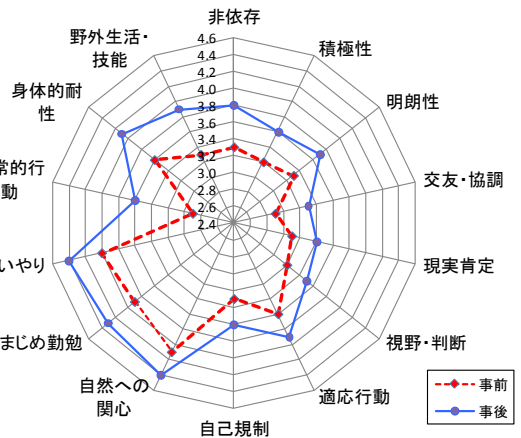
全項目での向上が見られたが、その中で、最も向上が見られたのは「日常的行動」の0.7ポイントで、次いで「野外生活・技能」で0.6ポイントであった。重点を置いた「非依存」「身体的耐性」は0.5ポイント、「交友・協調」「思いやり」は0.4ポイント、「現実肯定」は0.3ポイントの向上が見られた。

■ 結果の分析・考察

全ての項目で向上が見られたのは、チームウォーキングに参加した児童生徒が、全員完歩したという達成感を体験したことが影響したと考えられる。

また、計画的に仲間と行動をしたことにより「思いやり」と「日常的行動」が向上したと思われる。

チームでの活動や交流をとおして、仲間と協力し自分自身の役割を集団の中で果たすことができたことで「交友・協調」の向上が見られた。



■ 成果

- コミュニケーションゲームの延長ととらえて行ったチームクッキング（野外炊飯）は、想像以上に参加者の交流が深まり、心が開かれる傾向が見られた。
- チームウォーキングをメインとした活動をとおして、子どもたちの社会性の向上や他者を思いやる気持ちを涵養することができた。
- 参加者は大学生のボランティアから刺激を受ける様子が見えた。ボランティアの指導支援は参加者の変容に重要な要素となり、変容を促進させる契機となった。

■ 課題・今後の方向性

- 参加対象の児童・生徒にとって参加しやすい魅力的なプログラムを今後も検討する。
- 洞爺湖周辺や胆振管内の市町からも積極的に参加をしてもらえるよう、更に広報活動に力を入れたい。